

県内の河川およびダム湖におけるコクチバスの生息状況

臼杵崇広・佐野聡哉・田口貴史

1. 目的

これまでに県内ではコクチバスの生息が複数のダム湖で確認されており、平成26年には河川を通じた流出が疑われる小型個体が琵琶湖で捕獲された。分布の拡大が危惧されることから、関連水域で生息状況調査を実施した。

2. 方法

本種の流出が疑われるダム湖A（写真1 湖東地域）とこれまでに生息が確認されているダム湖B、C（ともに甲賀地域）において全国内水面漁業協同組合連合会所有の電気ショッカーボート「ぜんない1号」により、平成27年4月下旬、5月下旬、10月上旬に捕獲調査を行った。また、ダム湖A下流の河川A（写真2,3）では同年5月11日から6月17日に河口までの本流のほぼ全域（約18.9km）を踏査し、背負い式電気ショッカー（スミスルート社製 LR-24）、投網、釣り（餌：主に活スジエビ）、目視により生息状況を調査した。また、河川Aの北隣を流れる河川D（写真4）においては同年6月22日から7月14日に河口から上流約8.5kmまでの範囲の河川および上流のダム湖で釣り、目視により生息状況調査を実施した。さらに、ダム湖C下流の河川Cの一部（約0.2km）についても同年4月30日に背負い式電気ショッカー、目視により生息状況調査を実施した。

3. 結果

いずれのダム湖でも本種の営巣が確認され、多様なサイズの個体が捕獲された（写真5）ことからダム湖内で繁殖していると考えられた。なお、ダム湖Cでは浮上稚魚も確認した。

河川Aの上流域（漁業権漁場内）では背負い式電気ショッカーで1尾、投網で1尾、釣りで4尾捕獲し、目視で3尾確認した（写真

6）。中下流域では釣りで3尾捕獲し、目視で3尾確認し、ダム下から下流まで広範囲に分布していることが明らかになった。

河川Dおよびその上流のダム湖では生息は確認されなかったが、河川Cでは電気ショッカーにより4尾捕獲し、目視で5尾確認した。

繁殖が確認されているダム湖の下流のいずれの調査河川でもコクチバスが生息していることが明らかになり、供給源と考えられるダム湖とまだ低密度で生息している河川における効率的な駆除技術の開発が求められる。さらに、今後ダム湖Bの下流河川における生息状況についても調査する必要がある。

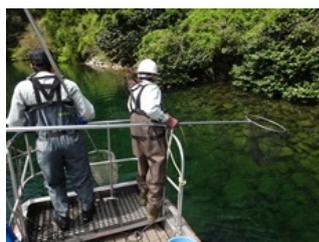


写真1 ダム湖Aにおける電気ショッカーボートによる捕獲状況

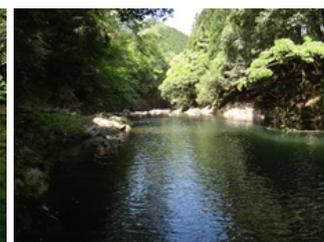


写真2 河川A（上流域）



写真3 河川A（下流域）ブロック間でコクチバスを捕獲



写真4 河川D（中流域）



写真5 ダム湖Aで捕獲されたコクチバス



写真6 河川Aで捕獲されたコクチバス
写真2周辺で捕獲